

新聞紙面では情報を視覚的に伝える手段として「棒グラフ」が多用されている。ひと目見ただけで全体の推移や傾向が理解できる優れた図版である。ただし限られた紙面内で効果的に情報を掲載するために、棒グラフの「裾切り（棒の下の部分を削除）」が行われることがある。本稿では、各新聞社の裾足切り棒グラフ掲載数と傾向、編集方針や新聞読者が注意すべき点について検証する。

(表) 新聞社別「裾切り」棒グラフの紙面掲載数

※調査期間：1 年間 (2024/1/1-12/31) [-]は掲載なし 調査=織茂聡

	足切り図 1 単純裾切り	足切り図 2 縦軸のみ破線	足切り図 3, 4 棒全体に破線
読売新聞 (読売)	-	2	13
朝日新聞 (朝日)	-	-	-
毎日新聞 (毎日)	-	2	1
日本経済新聞 (日経)	-	7	1
産経新聞 (産経)	1	3	17
東京新聞 (東京)	2	-	13
千葉日報 (千葉)	-	-	15 1
日刊工業新聞 (日刊工)	-	44	-
(計)	3	58	61

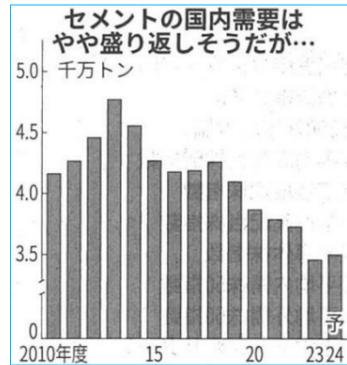


図 2 日経 2024/5/7 縦軸のみに破線棒の途中が省略・削除され変化強調



図 1 東京 2024/9/15 単純「足切り」の棒グラフ縦軸に 0 点の記載がなく、実際の牛肉生産量の年度推移『比率』が棒グラフの高さ比 (面積比) として正しく表わされていない

●専門紙ならではの表現。うちでは使わない (東京新聞社会部科学班) 全国紙・ブロック紙での使用には否定的な見解が多くなっている。

●「グラフを確認してから軸を見る。グラフが伝えた印象を軸が裏切っている (朝日新聞編集局デザイン部)

●「専門紙では足切りに惑わされる・誘導されることは少なく、限られた紙面での縦軸数値の細さが重要なものでは (読売新聞科学部)

●「グラフを確認してから軸を見る。グラフが伝えた印象を軸が裏切っている (朝日新聞編集局デザイン部)

●「専門紙では足切りに惑わされる・誘導されることは少なく、限られた紙面での縦軸数値の細さが重要なものでは (読売新聞科学部)

●「グラフを確認してから軸を見る。グラフが伝えた印象を軸が裏切っている (朝日新聞編集局デザイン部)

●「専門紙では足切りに惑わされる・誘導されることは少なく、限られた紙面での縦軸数値の細さが重要なものでは (読売新聞科学部)

●「グラフを確認してから軸を見る。グラフが伝えた印象を軸が裏切っている (朝日新聞編集局デザイン部)

●「専門紙では足切りに惑わされる・誘導されることは少なく、限られた紙面での縦軸数値の細さが重要なものでは (読売新聞科学部)

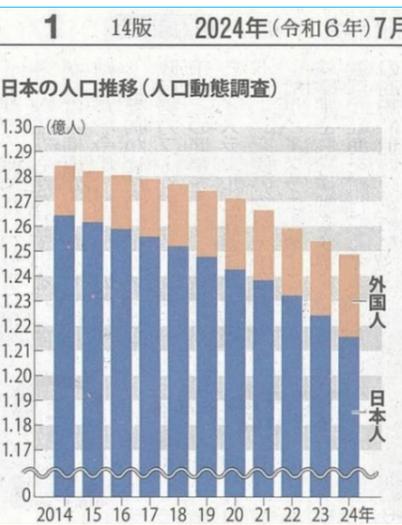


図 4 毎日 2024/7/25 積上げ棒グラフの全ての棒に破線 同じ棒に日本人・外国人が表記され、日本人のみ「裾切り」。外国人の「比率」が実際以上に増大しているかのような誤解を招く可能性、誘導への懸念 ※毎日新聞 Web 記事掲載 <https://mainichi.jp/articles/20240725/ddm/001/040/155000c>

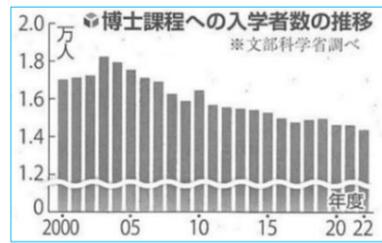


図 3 読売 2024/2/6 全ての棒に破線一目見て「ピーク時から半減」の印象

読者層によって編集方針を変える必要性は理解できるが、新聞という紙媒体には一定のルールが必要ではないかと感じた。特に全国紙については、中高生を含む一般読者への配慮から誤解を招く足切り棒グラフの使用は控えるべきだろう。

●「専門紙では足切りに惑わされる・誘導されることは少なく、限られた紙面での縦軸数値の細さが重要なものでは (読売新聞科学部)

●「グラフを確認してから軸を見る。グラフが伝えた印象を軸が裏切っている (朝日新聞編集局デザイン部)

●「専門紙では足切りに惑わされる・誘導されることは少なく、限られた紙面での縦軸数値の細さが重要なものでは (読売新聞科学部)

●「グラフを確認してから軸を見る。グラフが伝えた印象を軸が裏切っている (朝日新聞編集局デザイン部)

●「専門紙では足切りに惑わされる・誘導されることは少なく、限られた紙面での縦軸数値の細さが重要なものでは (読売新聞科学部)

読者層によって編集方針を変える必要性は理解できるが、新聞という紙媒体には一定のルールが必要ではないかと感じた。特に全国紙については、中高生を含む一般読者への配慮から誤解を招く足切り棒グラフの使用は控えるべきだろう。

読者層によって編集方針を変える必要性は理解できるが、新聞という紙媒体には一定のルールが必要ではないかと感じた。特に全国紙については、中高生を含む一般読者への配慮から誤解を招く足切り棒グラフの使用は控えるべきだろう。

読者層によって編集方針を変える必要性は理解できるが、新聞という紙媒体には一定のルールが必要ではないかと感じた。特に全国紙については、中高生を含む一般読者への配慮から誤解を招く足切り棒グラフの使用は控えるべきだろう。

読者層によって編集方針を変える必要性は理解できるが、新聞という紙媒体には一定のルールが必要ではないかと感じた。特に全国紙については、中高生を含む一般読者への配慮から誤解を招く足切り棒グラフの使用は控えるべきだろう。

読者層によって編集方針を変える必要性は理解できるが、新聞という紙媒体には一定のルールが必要ではないかと感じた。特に全国紙については、中高生を含む一般読者への配慮から誤解を招く足切り棒グラフの使用は控えるべきだろう。

日本 N I E 学会常任理事・立命館大学産業社会学部教授のコメント：生徒に向けた授業で新聞に掲載された棒グラフを扱う際には、教員自身がその正しい読み取り方法を理解していない場合もあり、基本的に「裾切り棒グラフ」の使用は避けるべきだろう。重要な着眼点、メディアへの指摘であり学会で情報共有・検討していくことにも意義があると思う。
※やなぎさわしんじ。専門は新聞活用の教育、メディア・リテラシー、ジャーナリズムとメディアの諸問題、等
※N I E: Newspaper In Education (教育に新聞を) <https://jssnie.jp/>